

黙示録17章5節「大淫婦バビロン」

1A バビロンの成り立ち

1B バベルの反抗

1C 権力者ニムロデ

2C 自分たちの名

3C 天に届く試み

2B ユーフラテス川

1C サタンと悪霊の巢窟

2C 川を越えたヘブル人

3C 神の都と世の都

3B エルサレムを潰したバビロン

1C 世界の権力者

2C 諸々の神々

3C エルサレムを滅ぼした天の女王

4B 終わりの日の裁き

2A 大淫婦

1B 純粋な信仰の汚れ

1C セツの子孫の祈り

2C 靈的姦淫

3C 清純な花嫁が汚される危険

2B 世に迎合した宗教

1C 世の権力

2C 忌まわしい慣わし

3C イエスだけではない道

本文

黙示録 17 章を開いてください。私たちの聖書通読の学びは、16 章まで来ました。午後礼拝で 17 章を一節ずつ見ていきますが、今朝は 5 節をお読みします。「**その額には、意味の秘められた名、大バビロン、淫婦たちと地上の忌まわしいものの母**」という名が記されていた。」

黙示録だけを読むと、どうして、こんなおどろおどろしい光景が出てくるのかと、とまどうでしょう。獣の上に女が乗っているのですが、それは彼女は、世界中の淫婦たちの中の大淫婦、世界の王たちを顧客にしている、とんでもない女です。その富は世界の富が集まっているから膨大で、紫と緋色の豪華な衣をまとっています。金と宝石と真珠の飾り物をしています。彼女が飲む金の杯は、

なんと、イエスを信じて殉教した者たちの血です。そして、その額に記されているのは、「**意味の秘められた名**」であり、大バビロンだということです。

黙示録の学びの初めに、この預言が、これまでの聖書に書かれていたことのクライマックスだということをお話ししました。ここだけを見ると、訳が分からないのですが、聖書を創世記から順番に学んでくると、ここが、連載のドラマや映画の最終章であることが分かります。最終回だけを見て、分からなくなるのと同じように、ここだけを見ると分からないのです。バビロンは、その典型です。実に創世記の始まりから出て来て、イスラエルの歴史にとって最も重要な時期に現れ、そして終わりの日にも現れるというものです。つまり、秘められたものです。

1A バビロンの成り立ち

黙示録は、終わりに近づくにつれて、始まりが意識されます。神は、すべてを完成されるのが終わりですが、それは事の始まりがあって、そこで事件が起こったからに他なりません。事の始まり、つまり、創世記に起こったことがその出来事です。

1B バベルの反抗

主は、ノアの時代に水によって世界をさばかれました。そしてノアの子孫に対して、「9:1 生めよ。増えよ。地に満ちよ。」と言われました。ところが、地に満ちることをせず、一つのところに集まり、都市を造っていったことが書かれています。

1C 権力者ニムロデ

創世記 10 章に、ニムロデという人が出ています。「10:9 地上で最初の勇士となった。彼は主の前に力ある狩人であった。」とあります。主の前に、と訳されていますが、主に反抗してという意味合いがあります。世における権力者の初めの人です。そして彼が、いろいろな王国を造ります。その第一の都が、バベルです。これが、バビロンの元の名前です。

2C 自分たちの名

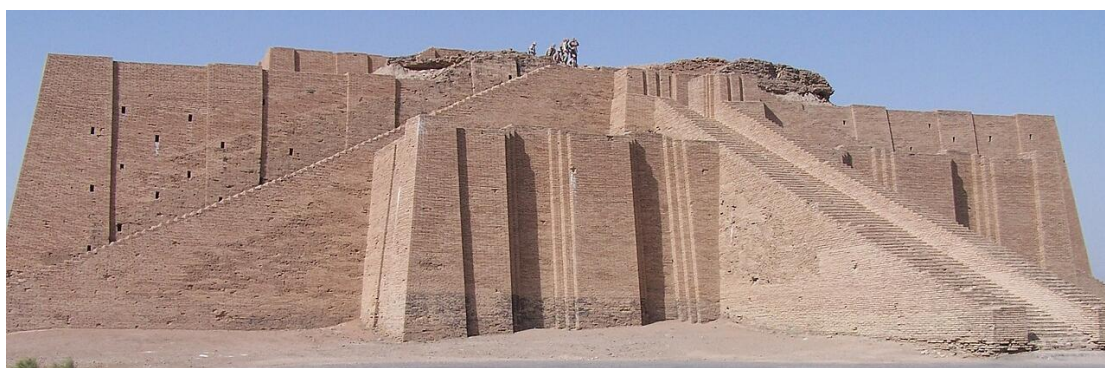
そして、次の章、11 章に行きますと、その地域、シナルの平地に人々が集まってきました。「11:2-4 人々が東の方へ移動したとき、彼らはシナルの地に平地を見つけて、そこに住んだ。3 彼らは互いに言った。「さあ、れんがを作って、よく焼こう。」彼らは石の代わりにれんがを、漆喰の代わりに瀝青を用いた。4 彼らは言った。「さあ、われわれは自分たちのために、町と、頂が天に届く塔を建てて、名をあげよう。われわれが地の全面に散らされるといけないから。」」シナルは、一般には、シュメールという名称で知られています。今のイラクの南部、ユーフラテ川の河畔にあった地域です。シュメール文明という言葉聞いたことがあるかと思います。

彼らが、地に満ちよと命じられた主のことばに意図的に反対して、都市を造っているのがお分か

りになると思います。洪水が起こったので、主を恐れて生きるのではなく、むしろ自分たちで煉瓦を造って、よく焼きました。そして瀝青、すなわちアスファルトで防水加工しました。それだけに終わりません。なんと、自分たちのための町、自分たちのための塔を造ります。神に頼るのではなく、自分の力で自分の知恵に頼っていくのだということです。

3C 天に届く試み

そして、天に届くようにして名を上げようとしています。つまり、天におられる神のようになろうということです。自分たちが、神のようになろうとしたのです。シンアルの平地にある町に、ウルがあります。ウルは、アブラハムの父の故郷です。そこに、ジググラトという、復元された遺跡があります。階段状になっている、ピラミッドみたいな形になっています。これをもって天に自分たちが届こうとしたのです。そして、バビロンは、星占いや神々の神話の始まりとなっていきます。



そして、主は上から、この塔を見下ろします。彼らのことばは一つでしたが、それをばらばらにします。そして、彼らの工事をやめさせます。彼らは、強いられて、世界に散っていき、それで言語ごとに民族が出てきました。

2B ユーフラテス川

1C サタンと悪霊の巢窟

ところで、この地域は、エデンの園の中心地域にありました。なぜなら、エデンの園にはユーフラテス川が流れているからです。そこに、善悪の知識の木があり、悪魔が蛇のかたちをして、エバを惑わして、アダムが罪を犯すことになりました。それで、黙示録を見ると、ユーフラテス川に、墮落して御使いたちが縛られているとか、前回は、汚れた霊どもが、ユーフラテス川の水を涸らして、王たちがハルマゲドンに集まることができるようにしましたね。

黙示録 18 章で、バビロンが倒れたのを見て、御使いが叫びます。「18:2 倒れた。大バビロンは倒れた。それは、悪霊の住みか、あらゆる汚れた霊の巢窟、あらゆる汚れた鳥の巢窟、あらゆる汚れた憎むべき獣の巢窟となった。」悪霊の住みか、汚れた霊の巢窟になっているのです。こうした、人々が一つに集まって、神なしで自分たちの都市を造り、そして天にまで届こうとするという、その動きには、悪魔は悪霊どもが彼らを高ぶらせているということがわかります。

2C 川を越えたヘブル人

そんなところから、主はアブラハムを呼び出されました。創世記 12 章です。「12:1 あなたは、あなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家を離れて、わたしが示す土地へ行きなさい。」そして、アブラハムはウルの町を離れ、ユーフラテス川を越えました。後に彼の子孫は、ヘブル人と呼ばれます。ヘブルは、「越える」という意味があります。高ぶり、権力を持ち、神ではない偽りのものを信じる、そうした都から離れなさいというメッセージが込められています。



3C 神の都と世の都

そして主は、アブラハムとその子孫に示されたのが、エルサレムです。「神の平和」という意味です。そこに神殿を建てることを命じられました。そして、そこを神の都とされました。神は、アブラハムを通して、エルサレムにご自分の都を建てられたのです。

ここ 17 章と次の 18 章でバビロンの都が倒壊する幻を見ます。そして 19 章以降、主が再臨されて、千年間の統治をエルサレムから行われ、それから、新天新地に天のエルサレムがあります。バビロンが倒壊して、神の永遠の都が建てられています。つまり、バビロンは、神に反抗して自分たちが神のようになろうとする、偽りの都であり、それに対してエルサレムが、神が王として治められる平和の都になっているのです。

3B エルサレムを潰したバビロン

そして、バビロンは、歴史の中でイスラエルとエルサレムを滅ぼした国として登場します。一般には、「新バビロニア帝国」と呼ばれます。ネブカドネツアルが初代の王です。旧約聖書は、イスラエ

¹ <https://meigata-bokushin.secret.jp/index.php?%E3%82%A2%E3%83%96%E3%83%A9%E3%83%8F%E3%83%A0%E3%81%AE%E7%94%9F%E6%B6%AF>

ルの民がエジプトから出て来て、約束の地に住み、エルサレムが建てられる姿を描いています。ところが、彼らが神に背いたので、エルサレムの都がバビロンに滅ぼされ、その土地から引き抜かれる姿を描いています。しかし、主は彼らが捕え移されてからバビロンを滅ぼし、彼らを七十年後にエルサレムに帰還させるようにされました。

この、バビロンによる破壊を中心にして、預言者たちは語り、神の救いのご計画を語っていったのです。私たちが結ばれている新しい契約も、預言者エレミヤが、間もなく起こるバビロン捕囚を背景にして、預言したものです。そして、エレミヤ書などに預言されているバビロンの倒壊は、その時の新バビロニア帝国のものだけではなく、終わりの日のバビロンの倒壊も合わせて預言しています。そして、それが黙示録 17-18 章にも反映されているのです。

1C 世界の権力者

このバビロンであります、バビロン王国というのは元々ありました。ユーフラテス川河畔に、バビロンという都がありました。けれども、次々と周囲の国々を倒し、広大な地域全体を支配してきました。ですから、バビロンは、歴史の中でイスラエルを取り囲む世界を支配した帝国として登場しています。黙示録 17 章でも、世界の王たちと淫行を働いている女としてバビロンが出て来ますが、権力を他の王たちに及ぼしている存在です。

2C 諸々の神々

そしてバビロンの都は、とんでもない富があり、その豪華さには目を奪われます。(CG で再現されたバビロンの動画を、ユーチューブでも見ることができます。²⁾有名なのは、「空中庭園」と呼ばれるものですね。



² 例 : <https://youtu.be/jgNYwi4X18k>

³ <https://www.kadingirra.com/babylon.html>

都の真ん中をユーフラテス川が流れています。そして中心には、「エ・テメン・アン・キ」と呼ばれる塔があります。それがバビロンのジグuratです。バビロンの神マルドゥクを祭っているところです。このように、バビロンは巨大な富と権力に合わせて、神々を祭っているところでもあります。

3C エルサレムを滅ぼした天の女王

バビロン神話には、イシュタルという女神がいます。そして、なんとエルサレムにおいて、「天の女神」として拝まれました。エルサレムがバビロンに滅ぼされたのは、主が、このようにイスラエルの民が周囲の神々を拝み、よりによってバビロンの女神を拝んでいるという背きがあったのです。

4B 終わりの日の裁き

そして、預言者たちがバビロンによるイスラエルへの裁きを預言したが、それと同時に、バビロン自体が永遠の裁きを受けることを教えました。それはその時のバビロンだけでなく、終わりの日のバビロンを滅ぼすことも含んでいたのです。それが黙示録に出てくるバビロンでもあります。

2A 大淫婦

このように、世の始まりに、神に反抗する都として出てきたバビロンが、イスラエルを滅ぼす帝国として歴史上も現れ、それがずっと世の国々の中で浸透し、そして終わりの時に顕著に現れる存在であります。では、これがどのように、我々、キリスト者に関りがあるのか？という疑問がでてくるでしょう。それを知るには、バビロンの名が「大淫婦」と呼ばれている理由を知ることです。

1B 純粋な信仰の汚れ

今、言いましたようにバビロンに対して、主の定められた都はエルサレムです。天からのエルサレムが、21 章 9 節に、「**子羊の妻である花嫁**」と呼ばれています。イエス・キリストに結ばれて、この方を主としている者たちが住む都が、エルサレムです。それに対して、バビロンは淫婦と呼ばれているのです。つまり、純粋な信仰ではなく他のものによって汚され、いや、自らを著しく汚してきたのが、バビロンと言えます。イエスは主であるのに、この方以外のものにより頼み、他のものに結ばれている状態です。霊的に姦淫を犯しているのが、大淫婦という言葉が示していることです。

1C セツの子孫の祈り

アダムとエバには、男の子が生まれました。セツと言います。こう書いてあります。「創世 5:26b **そのころ、人々は主の名を呼ぶことを求めた。**」こんなに素朴な祈りだったのです。主の名によって祈ります。ここから、主との純粋な関係が結ばれます。イエスも言われました。「マタ 18:20 **二人か三人がわたしの名において集まっているところには、わたしもその中にいるのです。**」

2C 霊的姦淫

ところが、そのような純粋で、誠実な関係を、他のものと混ぜ合わせていく時に、それが霊的な姦淫となるのです。主は、イスラエルの民と契約を結ばれる時、それはまるで、夫が妻と結ぶ誓い

のようなものでした。ただ主のみを愛して、従いなさいという契約でした。そうすれば、あなたは祝福されるという、とても純粋で、単純なものでした。

これを、預言者エゼキエルは、女にたとえて語っています。16 章にあります、かなり長い文章です。捨てられて、母親のへその緒が残っており、血だらけになっていたところを、主が拾いました。そして、「生きよ」と言って、彼女を育てました。そして十分に成熟して、乳房もふくらみ、髪も伸びました。けれども、丸裸でした。主は、衣の裾を彼女の上に広げて、契りを結びました。そうです、これが、主がイスラエルと契約を結んだ時の姿です。

そしてなんと、その時まで彼女は汚れていました。つまり、汚れたままで主は彼女と結婚されたのです。それから主は、彼女を世にも美しい女性の姿に変えられるのです。「16:9-10 わたしはあなたを水で洗い、あなたの血を洗い落とし、あなたに油を塗った。わたしはまた、あや織りの衣服をあなたに着せ、じゅごんの皮の履き物をはかせ、亜麻布をかぶらせ、絹物でおおった。」まず、彼女を洗い、それから美しく着飾りました。それだけではありません。「16:11-13 それから、わたしは飾り物であなたを飾り、腕には腕輪をはめ、首には首飾りをかけ、12 鼻には鼻輪、両耳には耳輪を着け、頭には輝かしい冠をかぶらせた。13 あなたは金や銀で飾られ、亜麻布や絹やあや織物を着て、上等の小麦粉や蜜や油を食べた。こうして、あなたは非常に美しくなり、女王の位に進んだ。」このようにして、女王の姿にまで引き上げられたのです。

これを「恵み」と呼ばずしてなんと呼ぶでしょうか？これが、神の恵みによって救われた者の姿です。恵みによって、主の美しさで着飾るのです。しかしここから、その美と富に溺れて、次々と姦淫して、ついには自分の身を売る、つまり売春して、ついに周囲の国々に攻められて、丸裸にされてしまう悲劇が書かれています。これが、エルサレムがバビロンに滅ぼされた姿です。主の恵みのうちにとどまることが、いかに難しいか、大きな挑戦であるかを思わされる教訓であります。ただ、主に愛されて、恵みを受けているのに、それ以外のものに引き寄せられ、他のものに走っていくという、霊的な姦淫の姿を示しています。

3C 清純な花嫁が汚される危険

これが教会の人々に起こるのだよという警告を、パウロはコリントにある教会の人々に伝えました。「Ⅱコリ 11:2-3 私は神の熱心をもって、あなたがたのことを熱心に思っています。私はあなたがたを清純な処女として、一人の夫キリストに献げるために婚約させたのですから。3 蛇が悪巧みによってエバを欺いたように、あなたがたの思いが汚されて、キリストに対する真心と純潔から離れてしまうのではないかと、私は心配しています。」

清純な処女として、キリストの前で婚約した花嫁であったはずなのに、キリストに対する真心と純潔から離れてしまうという恐れ、懸念です。

2B 世に迎合した宗教

バビロンは、私たちの周りに空気のように存在している姿です。

1C 世の権力

一つは、権力です。この大淫婦は、地の王たちを客にして売春している女です。獣の上に乗っています。主は、ゼルバベルに「ゼカ 4:6『**権力によらず、能力によらず、わたしの霊によって**』と**万軍の【主】は言われる。**』」と言われました。権力や能力ではなく、主の御霊により頼まないといけません。けれども、私たちは、主の御霊ではなく、目に見えるものにより頼むことが、あまりにも容易にできてしまいます。

世界を見回すと、日本ほど便利な国はないのではないかと思います。私たちが便利に暮らすことについては、日本の他にどこかあるだろうか？と思われます。けれども、日本の人たちが、イエスに従い、水のバプテスマを受けたのに、今は、神を知らない人々と同じように生きているのは、残念ながら多くいます。外国から来た人々も同じです。アメリカからやってきた人々が、日本における生活の楽しさに溺れて、信仰から離れていくのを見ます。中国では、熱心に教会に通っていた人々が、日曜日にも仕事が入るので、仕事を選択して、信仰生活から離れるのを見ました。

2C 忌まわしい慣わし

そしてバビロンにおいては、忌まわしい慣わしが横行しています。私たちの周りには、欲望がありふれています。ヨハネは、世を愛したら、その人には神の愛はないと断言しました。「Ⅰヨハ 2:15-16 **あなたは世も世にあるものも、愛してはいけません。もしだれかが世を愛しているなら、その人のうちに御父の愛はありません。16 すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢は、御父から出るものではなく、世から出るものだからです。**」しかし、バビロンはその欲と共に滅びます。続けて言いました。「**世と、世の欲は過ぎ去ります。しかし、神のみこころを行う者は永遠に生き続けます。(17 節)**」私たちは、今、自分の行っていることが、火によって焼かれてしまうものなのか、それとも永遠に永らえるものなのかを、確かめないとはいけません。

3C イエスだけではない道

そして、バビロンは、イエスだけではない道を示しています。淫婦ですから、多くの男と貫通しています。同じように、イエスご自身だけになっていないことが多くあります。広い道は滅びに至るとイエスが言われましたが、イエスだけになっていないのです。

今でこそ少ないかもしれませんが、日本の男性には仕事一本の人たちがいます。あまりにも仕事に没頭して、家庭を忘れてしまいます。ずっと我慢してきた奥さんが、子供たちが育って成人になろうという時に、離婚状を付き出されて、夫は青天の霹靂のごとく衝撃を受けます。それまで、自分が家族を置き去りにしていたことに気づかなかったのです。

これと似たようなことが、日本の社会にある、バビロンのものに捕らわれて、その誘惑に陥ることが数多くあります。仕事そのものは決して悪くないのです。いや、真面目に仕事に取り組んでいるのです。けれども、バランスを崩すのです。優先順位をわきまえていないのです。その一つ一つに真面目に取り組んで、もっとも大切である方、すなわちイエスが第一になっていないのです。イエスは信じているよ、と言います。けれども、他に大切なことがある時に、それを横において、イエスの命じられたことを選んでいるでしょうか？

バビロンが倒壊する時に、天からの声がありました。「18:4 わたしの民は、この女の罪に関わらないように、その災害に巻き込まれないように、彼女のところから出て行きなさい。」出ていきなさい、ということです。罪にかかわらないように、この災害に巻き込まれないように、出ていきなさいということです。今、自分にまわりついている罪や重荷があるならば、それをふるい払いましょう。そして、イエスを見て走る、信仰の競走を走り抜きましょう。